



一歩

進路だより「阿賀野川」

昨日、大形中学校の進路だより「阿賀野川」第1号が発行されました。

みなさんにとって、進路とは、高校進学や入試と受け止めている人も多いことでしょう。進路は、「高校への進学」もそうですし、職業訓練校など「技能を身につける専修学校への進学」や、職業に就くいわゆる「就職」も進路です。现阶段で、みなさんは高校進学を希望している人がほとんどですから、阿賀野川の情報の多くも高校進学や入試に関する記事が多くなることが考えられます。

阿賀野川は、生徒・保護者のみなさんに必要な進路情報を伝えるためのたよりです。生徒のみなさんが読むのはもちろん、保護者も目を通さなければいけません。必ず保護者に渡してください。

阿賀野川で、最初の内容のタイトルが「進路指導は待ったなし！」です。サブタイトルに「提出物は厳守をお願いします！」と書かれています。締切を守ることは、一般常識ですが、進路においては絶対と思ってください。この気持ちは「！」にも込められているのでしよう。



12月末、1月になると、私立高校や公立高校の出願をします(※「出願」とは、高校入試に申し込む手続きのこと、またその申込み文書のことです)。その際に、提出物(出願書類)



が間に合わないのを待ってくださいますは受け付けられません。その理由は、他の生徒に迷惑をかけるからです。一部の締切を守らない生徒を待つために、他の生徒の高校への出願も締切のぎりぎりになってしまいます。もし高校の締切に間に合わなかったら、高校側は受け付けてくれません。締切とはそういうものです。少くも時間を伸ばしてほしい、次の日でも受け付けられるはずは、高校側に通用しません。学校として締切に間に合わないということは、一部の生徒のために、大形中学校の他の生徒も全員が出願できないことを意味します。これは絶対にあってははいけません。今受験に向けてがんばっている大形中学校の3年生はたくさんいます。そのがんばりを、一部の締切を守らない人をカバーするために、無駄にすることは決して許されません。ご理解いただき、締切厳守をお願いします。

今回の阿賀野川では、6校の高校体験入学について載っており、申込みを募っています。体験入学を実施する高校は、この6校だけではありません。これから毎日のように各高校から体験入学の連絡が来ます。阿賀野川では、それを整理し、順次掲載していきます。あなたが進路希望している高校や興味のある高校もこれから掲載されることでしょう。



各高校から連絡が大形中学校に来たら、それは進路担当者に情報が行きます。進路担当者は、それを整理してみなさんに情報提供します。同時に、みなさんの体験入学の希望申込みを中学校から高校へ連絡します。どちらも進路担当者の仕事です。進路の仕事に限らずどんな仕事でも、一つのことだけやっていたらよいのなら、非常にやりやすいのですが、複数を同時にやらなければいけないのが普通です。高校から情報を受け取り、みなさんに発信し、みなさんからの申込みを受け付け、高校に連絡をすると

いう複数の作業を確実に行わなければいけません。他の高校の締切間際に、多くの高校から体験入学の案内連絡が来るということもこれまでにはありました。高校から、「関係生徒に至急連絡してください」や「〇〇(体験希望コースなど)を確認して連絡をください」など急な内容もあります。進路指導の担当者は、忙しい時期になると寝る間も惜しんでという言葉の通り、本当に寝る時間を削ってまで仕事をしなければいけない時期もあります。

みなさんに進路担当の先生の仕事をお知らせしたのは、このような状況の中、絶対にミスなく仕事を終えなければいけないことを知ってもらいたいと思ったからです。自分ががんばる裏側で、あなたを目標や夢を支えるために、日頃見えないところで地道に取り組んでいる人がいる。これが仕事です。大形中学校で進路指導主事をしている肥田野先生は、進路のプロであり尊敬しています。先生方がこの職業に就くとき、進路を専門職として教員になる人はいません。教員の仕事をしていく中で、教科以外の仕事も先生方はおこないます。その経験と勉強(先生方も勉強します)を通して、進路担当の先生はその道に詳しくなっています。

肥田野先生は、本校の進路指導の柱となる先生です。締切を守らず、柱となる先生を振り回し、労力を遅れ対応に使ってもらうのではなく、みなさんの進路希望を叶えるための有意義な情報提供や、進路学習などに力を発揮していただきましょう。「締切を守りましょう」のメッセージの陰に、みなさんの進路実現に向けたがんばりを支えるぞ！という気持ちが込められているのです。



生徒のみなさんは

1 生徒は保護者へ「たよりを必ず渡す」「情報は伝える」

2 締切は守る

です。

締切を守れず未提出の書類があったとき「おうちの人がくれなかった」という理由を言う生徒が時折います。それは校内であれば通じる理由かもしれませんが、進路においては高校が認める理由でなければ、理由として通用しません。世の中では「おうちの人」が最上位、最優先ではありません。小学生の理由のような「おうちの人」は、これからはやめましょう。保護者が忘れていたら、生徒自身が「明日締切の提出物をください」と保護者に自分で伝え、保護者からもらうのです。あなたの進路なのですから。

